

ナシヒメシクイ情報第1号 (モモ)

令和8年4月6日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

トラップによる越冬世代成虫誘殺数が多い地域があります 幼虫による新梢の芯折れ被害に注意してください

1 発生状況

県内各地に設置したフェロモントラップによるナシヒメシクイの越冬世代成虫の誘殺数は一部地域で多い状況です。

豊田市に設置したフェロモントラップの誘殺数(3月の合計)は過去10年と比較して最も多く、長久手市の誘殺数(3月の合計)は過去10年と比較して3番目に多い状況です(図1)。

本種は、東海地方では年に4～5回発生するとされており、成虫誘殺数が多い地域では次世代以降の発生量も多くなることが予想されますので、特に注意が必要です。

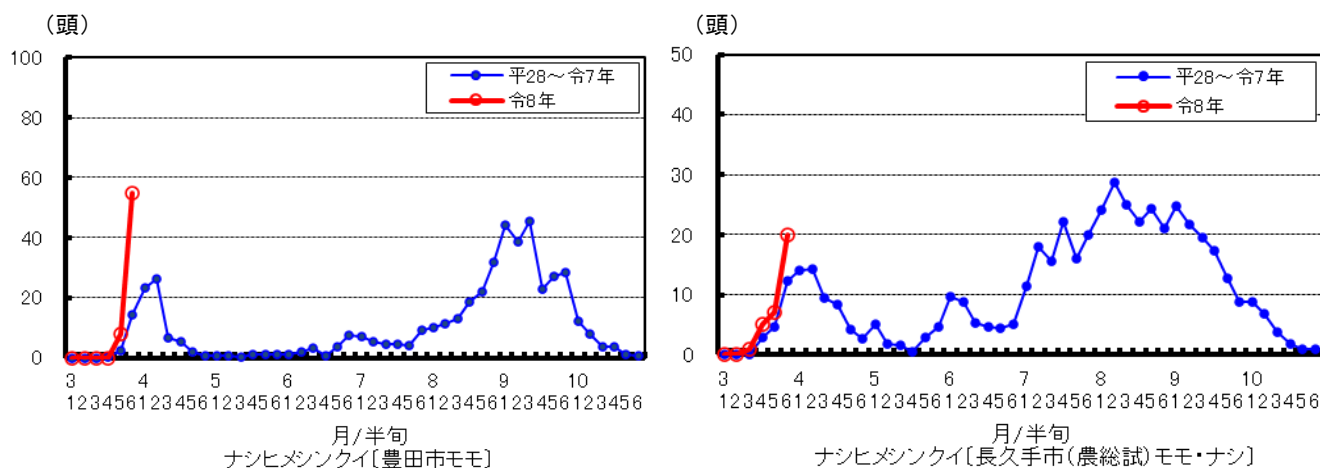


図1 フェロモントラップによるナシヒメシクイ成虫の誘殺状況

※トラップデータについてはあいち病害虫情報のウェブページに掲載しています
(<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>)

2 ナシヒメシンクイについて

本種は、老齢幼虫が果樹の粗皮の割れ目等にまゆを作って越冬し、3月頃に蛹化が始まり、羽化した成虫はモモの新梢や葉裏に産卵します。

ふ化した幼虫は新梢先端に移動し、そこから食入することで「芯折れ」症状を引き起こします（図2）。

その後、世代を繰り返す、幼虫の寄生は果実へと及び、果実への食入による被害を引き起こします（図3）。



図2 新梢の芯折れ被害

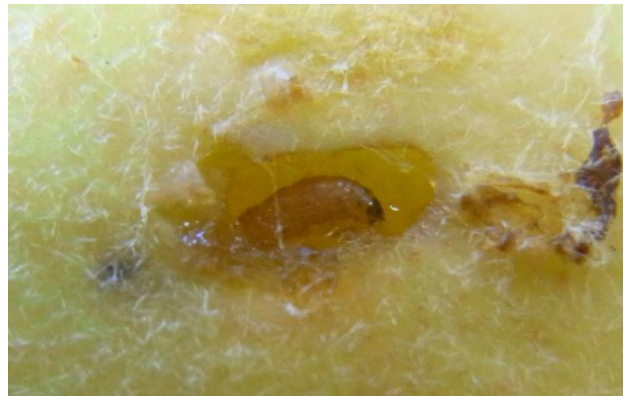


図3 果実を食害する幼虫

3 防除対策

幼虫が新梢へ食入すると薬剤の効果が高くなるので、防除適期は卵から幼虫がふ化するタイミングです。

第一世代幼虫の薬剤散布適期は越冬世代成虫の誘殺最盛日から12～22日後です（植物防疫特別増刊号N0.13 フェロモンによる発生予察法P104から引用）。

表 モモのシンクイムシ類に対する主な防除薬剤

表 ももにおけるシンクイムシ類に対する主な防除薬剤

農薬名	成分名	使用時期	本剤の使用回数	IRACコード
オリオン水和剤40	アラニカルブ	収穫14日前まで	2回以内	1A
スピノエースフロアブル	スピノサド	収穫3日前まで	3回以内	5
バリアード顆粒水和剤	チアクロプリド	収穫前日まで	3回以内	4A
フェニックスフロアブル	フルベンジアミド	収穫前日まで	2回以内	28

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は

https://www.croplifejapan.org/assets/file/lab0/mechanism/mechanism_irac03 を参照する。

薬剤散布の際は、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。